

# 安心・安全な環境で使える LTEタブレットで、 授業の質を高める挑戦を増やす

— 鎌倉市教育委員会

## 目的

- 学校の様々な場所で安心・安全にタブレットを利用したい
- タブレットの活用範囲を広げたい
- 児童生徒のクリエイティブな発想を育てたい

## アプローチ

- セキュリティ面の優れたLTEタブレットを導入
- 校内研修やアドバイザーの派遣等充実したサポートを実施
- タブレットを活用し、好奇心を刺激する活動を実現

## 安心・安全に使える環境を築けるのが、LTEタブレットの魅力

鎌倉市教育委員会は、2011年度から「かまくら教育プラン」を策定し、ICT環境の整備を進めています。具体的には、鎌倉市教育ネットを整備し校務の効率化に取り組んだり、市内の小中学校のコンピュータ教室にタブレットPCを導入したりするなど、段階的にICT環境を充実させています。

### 優れたセキュリティだからこそ、安心して学習の質を追求できる



そんな同市では2016年度から、市内の全小学校16校に対して、LTEタブレットを21台ずつ導入しました。ちょうど、タブレットPCのリプレース時期を迎え、新たに導入する端末の一部をLTEモデルにしたのです。これについて鎌倉市教育委員会の指導主事 上太一氏は、「これからは子どもたちが学校内のさまざまな場所でICTを活用する学習が増えるため、安心・安全に使えるLTEモデルが良いと判断しました。たとえば、紛失した際にすぐにロックができたり、位置情報追跡で端末を探ることができたりと、LTEモデルはセキュリティ面が優れています。また当時は校務系システムと学習系システムの分離も言われ始めた時期で、LTEモデルであれば、そうした環境もすぐに構築できると考えました」と語っています。



上太一氏

LTEモデルのタブレットを導入してからは、教師の間でもICT活用が広がってきたといいます。上氏は「最初は“まずは自由な発想で使ってください”と教師に呼びかけて進めてきましたが、次にめざすのはICTを活用してどのように学びの質を向上させるかです。ICTのメリットを活かして授業改善を進めていきます」と語っています。

### 鎌倉市教育委員会

鎌倉市御成町12-18

URL: <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku/kyouiku/index.html>

鎌倉市教育委員会は2016年度から、市内の全小学校に対してLTEタブレットを21台ずつ整備しました。LTEはGPSで生徒の位置情報を管理でき、Wi-Fiモデルよりセキュリティ面が優れているため、校外学習にも安心してICTを活用できることが決め手でした。児童たちのアウトプットを豊かにするICT活用で、授業の質を高める学習に挑戦しています。



[取材協力] 鎌倉市立山崎小学校

# 教育ICTアドバイザーによる、タブレット導入後のサポート



鎌倉市立山崎小学校は、ICTのパイロット校としてさまざまな実践・研究に取り組んでいます。校内研修も活発に行われており、NTTドコモも現場のICTスキル向上にむけて研修をサポートしています。

たとえば5年生を受け持つ川澄健作教諭のクラスには、国語の時間に教育ICTアドバイザーを派遣し、授業支援システムを活用した研究授業を実施しました。この授業ではアドバイザーがサポートに入りながら、川澄教諭が授業支援システムを用いた意見を共有することで目標にせまる授業に挑戦。児童たちはタブレットを2人で1台利用し、与えられた文章を1年生に分かりやすく伝えるためにはどのように書き直せば良いかという課題に取り組みました。川澄教諭は手元のタブレットで、リアルタイムに反映される児童たちの回答を見ながら、臨機応変に言葉をかけ、授業支援システムのメリットを授業で活かしていました。

## 専門家のアドバイスでイメージしていた学習方法が早期具体化へ

川澄教諭は「以前から授業支援アプリを使用していましたが、もっと活用範囲を広げたいと思いつつも、なかなか手が出せずにいました。今回の研究授業を通して、専門家からアドバイスを受けることができ、イメージが広がりました」と語ります。社会の学習で調べた内容をまとめたり、自分の考えを書き込んで共有したりするのに活用していきたいと、早速授業の具体的なイメージを描き始めています。

ICT活用を広げていくにあたり、このような現場の試行錯誤や研修は欠かせませんが、NTTドコモではタブレット導入後も現場の要望に寄ったアフターフォローを行っています。



川澄 健作 教諭



## タブレットを使うほど、子どもたちがクリエイティブに

同じく山崎小学校で6年生を受け持つ加藤勝也教諭も、積極的にICT活用に取り組んでいます。なかでも多いのはプレゼンテーションで、社会など与えられたテーマについて情報収集し、その内容をスライドにまとめて発表します。

同教諭は「タブレットを使う回数が増えるほど、子どもたちはクリエイティブな発想を持つようになりました。写真ひとつにしても、どのように撮れば伝わりやすいのか相手を意識して構成を考えたり、友達が工夫した点を自分でも取り入れてやってみたりと相乗効果も生まれています。タブレットを使う自由度が高いほど、子どもたちの個性が表現できると感じています」と語っています。



加藤 勝也 教諭

## 子どもたちの好奇心を刺激するような活動が取り入れやすくなる

一方で加藤教諭は、タブレットばかりではなく、国語ではタブレットPCも使うことが多いといいます。タイピングのスキルを高めるとともに、推敲しやすいICTのメリットを活かして文章を書くなど、教科の特性や学習のねらいに合わせて端末を使い分けているというのです。

同教諭はICTを使った学習のメリットについて「教師も子どもたちも表現できることが増え、今までできなかったことができるようになりました。ICTがあることで授業デザインを変えることができ、子どもたちの好奇心を刺激するような活動も取り入れやすくなった」と述べました。今後はより充実した学習ができるようICTを取り入れたカリキュラム・マネジメントが課題であると話す加藤教諭ですが、ICTのパイロット校としてさらに実践を重ねていきたいといいます。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)  
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを!

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)

